

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																			
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	荒井 英之	〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化・教養専門課程	ネイチャーアクアリウム学科		平成22年文部科学省告示 第三十号	-																		
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、観賞魚及び水草の飼育、アクアリウムの制作・維持管理など水生生物関連分野における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成し、実践的な職業教育の水準の維持向上を図り、水生生物関連分野で活躍できる職業人を育成し、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																
	2年	1820時間	836時間	0時間	984時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
40人		29人	1人	1人	6人	7人																	
学期制度	■前期：4月1日～9月15日 ■後期：9月16日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																		
長期休み	■夏期休業：8月4日～8月15日 ■冬期休業：12月15日～1月5日			卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																		
学支支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。 外部ボランティアへの参加を促している。 学園祭実行委員会を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動：有																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) 観賞魚店、ペットショップ、観賞魚用品メーカー ■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業生数 11人 ■就職希望者数 9人 ■就職者数 9人 ■就職率 : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 81.8% ・進学者数： 0人 ・留学生は母国へ帰国 0人 (令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定初級</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>観賞魚・飼育管理士ベテラン検</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	社会人常識マナー3級	③	11人	11人	コミュニケーション検定初級	③	11人	10人	観賞魚・飼育管理士ベテラン検	③	11人	11人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
社会人常識マナー3級	③	11人	11人																				
コミュニケーション検定初級	③	11人	10人																				
観賞魚・飼育管理士ベテラン検	③	11人	11人																				

中途退学の現状	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者29名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者29名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.wan-c.jp/nature_aquarium/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に行っている。特にネイチャーアクアリウム・海洋生物学科については株式会社アクアデザインアマンを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っている。その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
加藤 治彦	日本動物園水族館協会	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	②
阿部 正敏	株式会社アクアデザインアマン	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校		
鈴木 倫明	国際ペットワールド専門学校		
佐藤 真司	国際ペットワールド専門学校		
柴田 謙作	国際ペットワールド専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)

年2回、4月、5月に開催

(開催日時)

第1回 令和1年4月3日 15:00～16:00
第2回 令和1年5月14日 11:30～12:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ポルトガル、リスボン水族館にある、世界最大のネイチャーアクアリウムを見学する海外研修は、授業としてカリキュラムに組み込んでいる。現地で働いているスタッフには、当校の卒業生が居るため、そのような卒業生スタッフの講義を日本で受けさせることで、動機づけとする提案があったため、実際の授業で実施した。また、昨今の急速なIT化に対応するため、アクアリウムショップでのITに関する知識が求められている。SNSを活用した情報拡散の利用についての授業も、ビジネスの現場で需要があるとの意見があった。SNSの概論や利活用についての授業を取り入れることとした。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
造形美術	ネイチャーアクアリウムのデザインを左右する、流木や石の配置方法について、美術的な観点から学ぶ。	(株) アクアデザインアミノ
ネイチャーアクアリウム実習Ⅰ	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを実際に制作する。	(株) アクアデザインアミノ
ネイチャーアクアリウム実習Ⅱ	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを制作する。また、グループごとに大型水槽で作品制作を行い、コンテストでの入賞を目指す。	(株) アクアデザインアミノ
ネイチャーアクアリウムギャラリー実習Ⅰ	(株) アクアデザインアミノ本社ギャラリー内において、ディスプレイ用のネイチャーアクアリウムのメンテナンスを行う。	(株) アクアデザインアミノ
ネイチャーアクアリウムギャラリー実習Ⅱ	(株) アクアデザインアミノ本社ギャラリー内において、ディスプレイ用のネイチャーアクアリウムのメンテナンスを行う。	(株) アクアデザインアミノ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「世界水草レイアウトコンテスト作品発表研修」

(連携企業等:株式会社アクアデザインアマン)

期間:令和1年10月13日(土) 対象:ネイチャーアクアリウム学科教員1名

内容:ネイチャーアクアリウムの制作と管理技術について、株式会社アクアデザインアマンが主催する、世界水草レイアウトコンテストの作品発表へ参加し、各作品の評価ポイント、作者の制作意図、意見交換などの研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「的場亮氏講演会」(連携企業等:株式会社グローバルキャリア)

期間:平成31年4月25日(木) 対象:ネイチャーアクアリウム学科教員1名

内容:学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「世界水草レイアウトコンテスト作品発表研修」

(連携企業等:株式会社アクアデザインアマン)

期間:令和2年8月20日(木) 対象:ネイチャーアクアリウム学科教員1名

内容:ネイチャーアクアリウムの制作と管理技術について、株式会社アクアデザインアマンが主催する、世界水草レイアウトコンテストの作品発表、評価への研修参加をオンラインにて予定する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」

(連携企業等:株式会社マネジメントサービスセンター)

期間:令和2年9月17日(木) 対象:ネイチャーアクアリウム学科教員1名

内容:教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。学生指導や育成を目的としたインタアクション(コミュニケーション)を学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見を行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【指摘事項】

業界では、人材不足が続いている。就職実績としては問題ない。卒業生へのフォローアップがあったら良いと思う。しかし、卒業生としては、同級生と一緒にいこうという流れにならないと、参加しにくいことが本音である。

【改善・活用状況】

これらの意見に対して、卒業生と一緒に来校しやすいように、学園祭と校友会(OB,OG会)を同時開催することとした。2019年度の学園祭では、卒業後に活躍しているOB、OGの数名に、講演会をお願いする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
高橋俊介	愛宕商事株式会社 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
中村琴乃	国際ペットワールド専門学校校友会	平成31年4月1日～令和3年3月32日	卒業生
平原法子		平成31年4月1日～令和3年3月33日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

令和2年9月11日公表

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2020/img/pdf/2020_schoolrelationship.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性、担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 ネイチャーアクアリウム学科 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーション実践Ⅰ	コミュニケーション能力を、講義だけでなくワークショップ等取り入れながら実践を学ぶ。	1前	32	4	○			○		○		
○			コンピュータ実習Ⅰ	基本的な文書作成や表計算、グラフ作成などを修得する。	1後	32	1			○	○			○	
○			ビジネスマナー	一般知識や職務知識、技能やマナー接遇（言葉遣い、話し方、態度、振る舞い）人柄の要素について学ぶ。	1前	32	2	○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	社会人としての健全な人格形成を目指し、就職に対する意欲を定着させ自己目標の実現を目指す。	1後	32	2	○			○		○		
○			水槽管理実習Ⅰ	学校内外に設置している水槽に、不具合が無い点検し、必要な管理作業を行う。	1後	64	2			○	○		○		
○			観賞魚飼育概論	観賞魚を飼育するための基本の知識を身に付ける。器具や飼育手順について学ぶ。	1前	16	1	○			○		○		○
○			魚病学	観賞魚を飼育する際に発生しやすい病気を理解し、予防法から治療法まで学ぶ。	1後	16	1	○			○			○	○
○			観賞魚各論Ⅰ	淡水熱帯魚について、現場で覚えておくべき代表的な魚種について学ぶ。	1前	32	2	○			○		○		
○			マリンアクアリウム理論Ⅰ	アクアリウムショップで取り扱うマリンアクアリウムについて、飼育のために必要な基礎知識を学ぶ。	1前	16	1	○			○		○		
○			ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムの原理、作成手法、維持管理の技術、器具の構造や利点などを学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	○

○		就職実務Ⅱ	社会人としての健全な人格形成を目指し、就職に対する意欲を定着させ自己目標の実現を目指す。	2前	32	2	○			○		○		
○		水槽管理実習Ⅱ	学校内外に設置している水槽に、不具合が無いか点検し、必要な管理作業を行う。さらに、下級生に水槽管理上の指導を行う。	2通	128	4				○	○	○		
○		ショップスキルⅡ	アクアリウムショップでの生体の販売管理方法について学ぶ。	2後	16	1	○			○		○		
○		遺伝・育種学	錦鯉やグッピーの遺伝を始め、観賞魚の色彩や体型の品種改良について学ぶ。	2後	16	1	○			○			○	○
○		観賞魚飼育・管理士対策	観賞魚飼育管理士ベーシックレベルの合格を目指し、対策学習を行う。	2前	32	2	○			○		○		
○		養殖・繁殖学	観賞魚の養殖や繁殖の方法について学ぶ。	2後	16	1	○			○			○	○
○		環境・生態保護論	湖沼や河川の環境に関する問題事例、保護や保全について紹介する。	2後	32	2	○			○			○	○
○		魚類概論Ⅱ	魚類の体内の構造、魚類の生理について学ぶ。生態や繁殖と、体内での変化についても解説する。	2前	32	2	○			○			○	
○		水生動植物実験Ⅱ	魚類や無脊椎動物などの体構造の観察やスケッチ、血液検査、年齢査定、水生生物飼育のための化学実験、水槽加工制作を行う	2通	48	2				○	○		○	
○		マリンアクアリウム理論Ⅱ	アクアリウムショップで取り扱うマリンアクアリウムについて、飼育のために必要な知識を学ぶ。無脊椎動物の飼育や、クマノミの繁殖についても学ぶ。	2後	32	2	○			○		○		

○		観賞魚飼育実習Ⅱ	飼育の難易度が高い魚種の飼育を実践する。導入時のトリートメント、病気の防除方法、病気の治療、繁殖までを実践する。	2後	32	1				○	○	○						
○		ネイチャーアクアリウムギャラリー実習Ⅱ	(株) アクアデザインアmano本社ギャラリー内において、ディスプレイ用のネイチャーアクアリウムのメンテナンスを行う。	2前	64	2				○	○	○	○					
○		マリンアクアリウム実習Ⅱ	海水魚の病気治療(白点病)、難易度の高い魚種の飼育、無脊椎動物の取り扱い方について実習を行う。	2前	32	1				○	○	○						
○		ネイチャーアクアリウム実習Ⅱ	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを制作する。また、グループごとに大型水槽で作品制作を行い、コンテストでの入賞を目指す。	2通	96	3				○	○							○
○		水草概論Ⅱ	アクアリウムで取り扱われる水草について、植物の体構造や生長、繁殖の仕方について学ぶ。	2後	32	2	○				○							○
○		観賞魚各論Ⅱ	観賞魚ショップで覚えておくべき、金魚、錦鯉の代表的な魚種を識別できるようにする。	2後	32	2	○				○							○
○		自然造園デザイン概論	ビオトープの役割、仕組み、生態系が形成されるまでの段階、利活用方法などを紹介する。	2前	16	1	○				○							○
○		海水魚の病気	観賞用の海水魚を飼育している際に発生する病気の予防と治療について学ぶ。特に白点病治療の投薬計算を身に付ける。	2前	16	1	○				○							○
○		SNS活用	SNSによる情報発信について、概要、方法、効果等について学ぶ。	2後	12	1	○				○							○
○		異文化研究	海外研修を実施する。不参加者は学内にて海外事情の調査と発表を行う。	2後	40	3	○				○							○
○		昆虫・爬虫類飼育概論	ペットショップで扱う昆虫類、爬虫類等の飼育法について学ぶ。	2後	32	2	○				○							○
合計					46科目				1820単位時間(87単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
国際ペットワールド専門学校	平成12年1月7日	荒井 英之	〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養専門課程	海洋生物・ドルフィン学科		平成22年文部科学省告示第三十号	-																						
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、観賞魚及び水草の飼育、アクアリムの制作・維持管理など水生生物関連分野における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成し、実践的な職業教育の水準の維持向上を図り、水生生物関連分野で活躍できる職業人を育成し、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1828時間		996時間	0時間	832時間	0時間	0時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
40人	39人	0人	1人	4人	5人																						
学期制度	■前期：4月1日～9月15日 ■後期：9月16日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																							
長期休み	■夏期休業：8月4日～8月15日 ■冬期休業：12月15日～1月5日		卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																							
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。		課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。 外部ボランティアへの参加を促している。 学園祭実行委員会を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動：有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) 水族館、観賞魚店、ペットショップ、ダイビングショップ ■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 95 % ・進学者数： 0 人 (令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等(令和1年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定初級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>観賞魚・飼育管理士ベーシック</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>潜水士</td> <td>①</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	社会人常識マナー3級	③	20人	19人	コミュニケーション検定初級	③	20人	20人	観賞魚・飼育管理士ベーシック	③	20人	20人	潜水士	①	20人	20人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
社会人常識マナー3級	③	20人	19人																								
コミュニケーション検定初級	③	20人	20人																								
観賞魚・飼育管理士ベーシック	③	20人	20人																								
潜水士	①	20人	20人																								

中途退学の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 5.1%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者39名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者37名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 人間関係構築上の問題、進路変更</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.wan-c.jp/marine_dolphin/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に行っている。特に海洋生物・ドルフィン学科については株式会社アクアデザインマノを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っている。その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
加藤 治彦	日本動物園水族館協会	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	②
野村 卓之	新潟市水族館 展示課長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校		
鈴木 倫明	国際ペットワールド専門学校		
柴田 謙作	国際ペットワールド専門学校		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、4月、5月に開催

(開催日時)

第1回 令和1年4月3日 16:00～17:00

第2回 令和1年5月14日 10:30～11:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

授業の中で現在、フィールドで水生生物を採集している授業があるが、これをさらに発展させるという意見が出た。フィールド採集プログラムは、通常、水族館スタッフが一般の方向けに実施している。それを学生が主催する側となり、企画、準備、演習を行うものである。子供を対象としたプログラムを企画すると仮定し、プログラムの内容（対象者、人数、場所）、準備、広報などを考える。それを実際に行っている水族館の職員にプレゼンして、評価とフィードバックを受けるという授業である。実際にできるかどうかを検討している。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ネイチャーアクアリウム実践	ネイチャーアクアリウムのデザインを左右する、流木や石の配置方法について、美術的な観点から学ぶ。	(株) アクアデザインアmano
ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムの原理、作成手法、維持管理の技術、器具の構造や利点などを学ぶ。	(株) アクアデザインアmano
遺伝・育種学	錦鯉やグッピーの遺伝を始め、観賞魚の色彩や体型の品種改良について学ぶ。	(株) アクアデザインアmano
養殖・繁殖学	観賞魚の養殖や繁殖の方法について学ぶ。	(株) アクアデザインアmano
環境・生態保護論	湖沼や河川の環境に関する問題事例、保護や保全について紹介する。	(株) アクアデザインアmano

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「世界水草レイアウトコンテスト作品発表研修」

(連携企業等:株式会社アクアデザインアマン)

期間:令和1年10月13日(土) 対象:海洋生物・ドルフィン学科教員1名

内容:ネイチャーアクアリウムの制作と管理技術について、株式会社アクアデザインアマンが主催する、世界水草レイアウトコンテストの作品発表へ参加し、各作品の評価ポイント、作者の制作意図、意見交換などの研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「的場亮氏講演会」(連携企業等:株式会社グローバルキャリア)

期間:平成31年4月25日(木) 対象:海洋生物・ドルフィン学科教員1名

内容:学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「世界水草レイアウトコンテスト作品発表研修」

(連携企業等:株式会社アクアデザインアマン)

期間:令和2年8月20日(木) 対象:海洋生物・ドルフィン学科教員1名

内容:ネイチャーアクアリウムの制作と管理技術について、株式会社アクアデザインアマンが主催する、世界水草レイアウトコンテストの作品発表、評価への研修参加をオンラインにて予定する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」

(連携企業等:株式会社マネジメントサービスセンター)

期間:令和2年9月17日(木) 対象:海洋生物・ドルフィン学科教員1名

内容:教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。学生指導や育成を目的としたインタアクション(コミュニケーション)を学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<p>評価項目は設定しない</p>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見をを行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【指摘事項】

業界では、人材不足が続いている。就職実績としては問題ない。卒業生へのフォローアップがあったら良いと思う。しかし、卒業生としては、同級生と一緒にいこうという流れにならないと、参加しにくいことが本音である。

【改善・活用状況】

これらの意見に対して、卒業生と一緒に来校しやすいように、学園祭と校友会(OB,OG会)を同時開催することとした。2019年度の学園祭では、卒業後に活躍しているOB、OGの数名に、講演会をお願いする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年9月30日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
高橋俊介	愛宕商事株式会社 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
中村琴乃	国際ペットワールド専門学校校友会	平成31年4月1日～令和3年3月32日	卒業生
平原法子		平成31年4月1日～令和3年3月33日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

令和2年9月11日公表

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2020/img/pdf/2020_schoolrelationship.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性、担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 海洋生物・ドルフィン学科 令和1年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			コミュニケーション実践Ⅰ	コミュニケーション能力を、講義だけでなくワークショップ等取り入れながら実践を学ぶ。	1前	32	2	○			○		○			
○			コンピュータ実習Ⅰ	基本的な文書作成や表計算、グラフ作成などを修得する。	1後	32	1			○	○				○	
○			ビジネスマナー	一般知識や職務知識、技能やマナー接遇（言葉遣い、話し方、態度、振る舞い）人柄の要素について学ぶ。	1前	32	2	○			○			○		
○			就職実務Ⅰ	社会人としての健全な人格形成を目指し、就職に対する意欲を定着させ自己目標の実現を目指す。	1後	32	2	○			○			○		
○			水槽管理実習Ⅰ	学校内外に設置している水槽に、不具合が無い点検し、必要な管理作業を行う。	1後	64	2			○	○			○		
○			観賞魚飼育概論	観賞魚を飼育するための基本の知識を身に付ける。器具や飼育手順について学ぶ。	1前	16	1	○			○				○	○
○			魚病学	観賞魚を飼育する際に発生しやすい病気を理解し、予防法から治療法まで学ぶ。	1後	16	1	○			○				○	○
○			ネイチャーアクアリウム理論	ネイチャーアクアリウムの原理、作成手法、維持管理の技術、器具の構造や利点などを学ぶ。	1通	64	4	○			○				○	○
○			マリンアクアリウム理論Ⅰ	アクアリウムショップで取り扱うマリンアクアリウムについて、飼育のために必要な基礎知識を学ぶ。	1前	16	1	○			○			○		

○		海洋学	気象、海流、光の性質、音波、海水成分など、海洋で発生する物理現象について学ぶ。	1 前	16	1	○														
○		魚類概論Ⅰ	魚類の分類や、各部形態の測定を学ぶ。魚類の各グループごとの特徴や生態を紹介する。	1 前	32	2	○														
○		水生動植物実験Ⅰ	魚類や無脊椎動物などの体構造の観察やスケッチ、血液検査、年齢査定、水生生物飼育のための化学実験、水槽加工制作を行う。	1 通	64	2							○	○							
○		スイムトレーニングⅠ	体力の増強と、水泳技術の向上のため、室内プールで水泳の練習を行う。	1 前	32	1							○		○						
○		トレーナートレーニングⅠ	海獣類のトレーナーとしての技術を身に付けるため、魚類を使用してトレーニングの実践を行う。	1 後	16	1							○	○							
○		ネイチャーアクアリウム実践	一人当たり、1つの水槽を使用して、ネイチャーアクアリウムを実際に制作する。	1 通	96	3							○	○						○	○
○		海洋生物概論Ⅰ	分類学、学名、和名、英名などの使用方法、魚類の分類や生態、代表種などについて学ぶ。	1 後	64	4	○								○						○
○		海洋保全論	海洋保全、環境保護の違いや、取り組みについて紹介する。	1 後	16	1	○								○						○
○		行動の原理	海獣類のトレーニングに必要な理論を学び、陽性強化法を理解する。	1 前	32	2	○								○						○
○		海洋哺乳類概論	海洋哺乳類（鯨類、鰭脚類、海牛類など）の生態について学ぶ。	1 後	16	1	○								○						○
○		水族飼育実習Ⅰ	一人1つずつの水槽を使用して、海水魚の飼育を実践する。	1 通	64	2									○	○					○
○		水族飼育理論Ⅰ	水族館設備（水槽、取水設備、ろ過槽、温度調整器具、殺菌施設など）の構造や原理、運用の注意点について学習する。	1 後	16	1	○								○						○
○		生物統計学Ⅰ	データ分析に必要な平均、標準偏差、分散、グラフ作成について、パーソナルコンピュータを使用して理解する。	1 後	16	1									○	○					○

○		潜水士対策	潜水士免許取得試験の合格を目指し、そのために必要な学習を行う。	1 前	96	6	○				○		○	
○		海獣類飼育理論	海獣類の輸送、病気治療、保存など、水族館で実際に行われている管理について学ぶ。	1 後	32	2	○				○			○
○		水生生物研究Ⅰ	日本海、鳥屋野潟など、野外での生物採集と同定を行う。荒天の際は、水族館での生物観察を行う。	1 後	64	2					○		○	○
○		コミュニケーション実践Ⅱ	コミュニケーション能力向上をめざし、講義だけではなく、ワークショップなどを行う。	2 後	32	2	○						○	○
○		コンピュータ実習Ⅱ	エクセルを使い、簡単な関数、グラフの作成などを行う。エクセル検定3級を受験。	2 前	32	1					○	○		○
○		プレゼンテーションⅡ	自分が学んでいる分野の中からテーマを選出しそのテーマについて研究、検証を行い、結果をまとめて考察し、パワーポイントを使って発表する。	2 前	32	2	○						○	○
○		就職実務Ⅱ	社会人としての健全な人格形成を目指し、就職に対する意欲を定着させ自己目標の実現を目指す。	2 前	32	2	○						○	○
○		水槽管理実習Ⅱ	学校内外に設置している水槽に、不具合が無いか点検し、必要な管理作業を行う。さらに、下級生に水槽管理上の指導を行う。	2 通	128	4					○	○		○
○		遺伝・育種学	錦鯉やグッピーの遺伝を始め、観賞魚の色彩や体型の品種改良について学ぶ。	2 後	16	1	○						○	○
○		観賞魚飼育・管理士対策	観賞魚飼育管理士ベーシックレベルの合格を目指し、対策学習を行う。	2 前	32	2	○						○	○
○		養殖・繁殖学	観賞魚の養殖や繁殖の方法について学ぶ。	2 後	16	1	○						○	○
○		環境・生態保護論	湖沼や河川の環境に関する問題事例、保護や保全について紹介する。	2 後	32	2	○						○	○
○		魚類概論Ⅱ	魚類の体内の構造、魚類の生理について学ぶ。生態や繁殖と、体内での変化についても解説する。	2 前	32	2	○						○	○
○		水生動植物実験Ⅱ	魚類や無脊椎動物などの体構造の観察やスケッチ、血液検査、年齢査定、水生生物飼育のための化学実験、水槽加工制作を行う	2 通	48	2					○	○		○
○		マリンアクアリウム理論Ⅱ	アクアリウムショップで取り扱うマリンアクアリウムについて、飼育のために必要な知識を学ぶ。無脊椎動物の飼育や、クマノミの繁殖についても学ぶ。	2 後	32	2	○						○	○
○		スイムトレーニングⅡ	体力の増強と、水泳技術の向上のため、室内プールで水泳の練習を行う。	2 前	32	1					○		○	○
○		トレーナートレーニングⅡ	海獣類のトレーナーとしての技術を身に付けるため、魚類を使用してトレーニングの実践を行う。また、下級生へのトレーニング指導を行う。	2 通	32	1					○	○		○

○		海獣類飼育理論	海獣類の輸送、病気治療、保存など、水族館で実際に行われている管理について学ぶ。	2前	32	1	○			○			○
○		海洋生物概論Ⅱ	分類学、学名、和名、英名などの使用方法、無脊椎動物の分類や生態、代表種などについて学ぶ。	2後	64	4	○			○			○
○		水族飼育実習Ⅱ	1人1水槽を用いて、飼育難易度の高い海水魚（病気に罹りやすい魚種）や、無脊椎動物の飼育を行う。	2通	64	2				○	○		○
○		水族飼育理論Ⅱ	海水魚が罹患する疾病について学び、投薬処理などの治療方法について習得する。	2前	16	1	○			○			○
○		捕鯨問題	捕鯨を取り巻く社会的な動きや、各立場の主張、問題となっていることについて、中立な立場から解説する。	2後	16	1	○			○			○
○		海洋法・漁業法	海洋で活動するに当たり、知っておくべき法律やルール、注意点などを習得する。	2前	16	1	○			○			○
○		SNS活用	SNSによる情報発信について、概要、方法、効果等について学ぶ。	2後	12	1	○			○			○
○		水生生物研究Ⅱ	日本海、鳥屋野潟など、野外での生物採集と同定を行う。荒天の際は、水族館での生物観察を行う。	2前	64	2				○			○
○		異文化研究	海外研修を実施する。不参加者は学内にて海外事情の調査と発表を行う。	2後	40	3	○			○			○
合計				48科目	1828単位時間（89単位）								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和2年10月14日※1
(前公表年月日:平成30年9月18日)

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns: 学校名, 設置認可年月日, 校長名, 所在地, 設置者名, 設立認可年月日, 代表者名, 所在地, 分野, 認定課程名, 認定学科名, 専門士, 高度専門士, 学目的, 認定年月日, 修業年限, 講義, 演習, 実習, 実験, 実技, 生徒総定員, 生徒実員, 留学生数, 専任教員数, 兼任教員数, 総教員数, 学期制度, 成績評価, 長期休み, 卒業・進級条件, 学修支援等, 課外活動, 就職等の状況, 主な学修成果, 中途退学の現状, 経済的支援制度, 第三者による学校評価, 当該学科のホームページURL

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
(3)「就職」とは、給与、賞金、報酬その他経済的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱わず)
(4)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に推進しており、新潟県内企業のみならず県外の企業とも連携し、講師の招聘、学外実習を行っている。
教育課程編成においては、獣医師会、動物病院、しつけ教室、ペットショップ、トリミングサロン等、動物、及びペット関連企業から広く意見を徴収し、カリキュラムやシラバスの改善、実習内容の精査、人間力指導の向上等についての意見交換をし、教育力の向上を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
小池 哲也	新潟市獣医師会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	①
宮川 篤史	宮川動物病院 副院長	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、2月と3月に開催

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成30年2月23日 18:30～19:30

平成29年度 第2回 平成30年3月23日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

愛玩動物を中心とした小動物(犬、猫含む)の飼育管理についてのカリキュラム内容となっているが、動物園や牧場などでは大動物を扱う。現在のカリキュラムでは、大動物に関する授業が少ないようだ。馬に関わる就職先に内定した卒業生も居り、大動物に関する授業を取り入れてみてはどうかという意見があった。大動物の飼育管理に関して実施が可能かどうか、検討することとした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
しつけトレーニング実習	ご褒美で誘導する誘導法を用いた犬のトレーニング技術の習得を目指す。	パップスフレンズ
ドッグトレーニング実習Ⅱ	基本的なトレーニング方法から応用させて、犬が社会参加して行く上で必要なGCT(グッド・シチズン・テスト)の模擬試験受験に向けたトレーニング技術を習得する。	PARA
ドッグトレーニング実習Ⅳ	基本的なトレーニング方法から応用させて、犬が社会参加して行く上で必要なGCT(グッド・シチズン・テスト)の模擬試験受験に向けたトレーニング技術を習得する。	PARA

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。 校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等 平成29年10月11日実施、「しつけ教室OJT」…動物飼育管理学科教員1名 しつけ教室開催に関する、家庭犬のしつけインストラクター技術について、パップスフレンズの金子真弓代表を講師として、研修会を開催した。当該学科で指導している、「飼い主に対する、犬のしつけのアドバイス技術」に直接的に関わる内容である。実際に、一般の飼い主に対して実施する犬のしつけ教室に、アシスタントインストラクターとして参加し、OJT形式での専門分野の指導力向上を図った。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等 平成29年4月12日実施、「てんつくまん氏講演会(ポジティブシンキングについての考え方)」…動物飼育管理学科教員2名 学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、有限会社クラブ・サンクチュアリの軌保博光代表を講師として研修を実施した。。</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等 平成30年11月9日実施予定、「動物病院のあれこれ、よろず相談」…動物飼育管理学科教員1名 ペットの問題行動に関する研究会である、行動学研究会白樺が主催する研修に参加する。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等 平成30年5月10日実施予定、「的場亮氏講演会」…動物飼育管理学科教員2名 学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を開催する。</p>

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見を行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【学校運営】

業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているかという点について、より具体的に明文化する必要がある。特に、クレーム処理、危機管理時のマニュアルを整備することとした。

【教育活動】

カリキュラムを策定するにあたり、学内での会議を行うが、その際に議事録を作成することとした。

【学修成果】

卒業生の動向把握が弱いため、校友会を活用し、現況把握に努めることとした。

【社会貢献・地域貢献】

一般向けの公開講座などを、現状では強く勧めていない。今後の課題として、一般向けの公開講座を拡大していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
小島 雅彦	新潟市動物ふれあいセンター	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
高井 虎之介	水草と美魚の店 At	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
黒嶋 友也	国際ペットワールド専門学校 校友会役員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生
松田 大	国際ペットワールド専門学校 Club WaN会員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

平成30年3月31日公表

URL: <https://www.wan-c.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。
 毎年度末(3月下旬)に講師会を開催し、企業等関係者を招集してガイドラインの各項目に基づく情報を提供する。提供した情報をもとに、各企業の講師から意見を聴取し、授業上の改善について議論を行う。そのうえで、学校からの要望、企業からの要望を突き合わせ、実行可能な項目を選出し、改善のための具体策を検討し、学校運営の改善についての協力を求める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 動物飼育管理学科) 令和1年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			飼養管理士総論	動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、対策授業を行う。	1通	56	2	○			○	○		
○			エキゾチックアニマルⅠ	犬・猫・ハムスター・モルモット・うさぎなどの小動物の生体の特徴、飼育方法を理解する。	1前	32	2	○			○		○	
○			動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。	1前	32	2	○			○		○	
○			公衆衛生学	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける。	1前	32	2	○			○			○
○			解剖学・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1後	32	2	○			○			○
○			動物看護実践Ⅰ	動物の取り扱い方法、注射などの基本的な道具の取り扱いが習得できる。	1後	32	1			○	○		○	
○			動物栄養学Ⅰ	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学ぶ。	1後	32	2	○			○			○
○			寄生虫学	内部寄生虫、外部寄生虫の生活環、病害、予防方法について学ぶ。	1後	16	1	○			○			○
○			グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名とその使用方法を学ぶ。また、犬種についての知識も学ぶ。	1前	16	1	○			○		○	
○			グルーミング実習	動物のプロとして必要な日頃のケアについて学ぶ。グルーミングの流れ、注意点について学ぶ。	1前	32	1			○	○		○	
○			しつけトレーニング実習	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。	1通	64	2			○	○			○
○			動物飼育実習Ⅰ	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける。	1通	64	2			○	○			○ ○

○		動物飼育実践Ⅰ	新潟市動物ふれあいセンターにて、展示動物、譲渡対象動物の飼育管理や展示の仕方を学ぶ。	1通	32	1			○	○	○	○
○		人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	1通	48	3	○		○		○	○
○		AAA総論	AAA、AATについて理解をすることを目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。	1前	16	1	○		○	○		
○		AAA概論Ⅰ	動物介在活動と動物介在療法の基本を学ぶ。	1通	48	3	○		○		○	○
○		AAA実習Ⅰ	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する。また、動物介在活動を安全に実施するにあたり必要な配慮やリスク管理を理解する。	1前	32	1		○	○	○		○
○		ビジネス経営基礎	ペットショップに必要な知識と技術、またペットショップ経営の基礎を習得する。	1通	64	4	○		○		○	○
○		コミュニケーション実践Ⅰ	自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格のために対策授業を行う。	1前	32	2	○		○	○		
○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。社会人常識マナー検定3級合格に向けて、過去問題を使用したの対策授業を行う。	1前	32	2	○				○	
○		就職実務Ⅰ	働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	1後	32	2	○		○	○		
○		コンピュータ実習Ⅰ	文書入力のある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1後	32	1		○	○			○
○		英語・英会話Ⅰ	英語をコミュニケーション・ツールの一つとして認識し、それを使って楽しむことができる。	1後	32	2	○		○	○		
	○	心理学	人が行動を起こすための仕組みを知る。	1後	16	1	○		○	○		
	○	カウンセリング話法	カウンセリングの技術を通して、人との接し方、話し方の技術を習得する。	1後	16	1	○		○	○		
	○	介護実習	介護職員初任者研修の受講を修了し、資格を得る。	1後	128	4	○	○	○	○	○	○

○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識を修得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方法を学ぶ。手作り食を試食を実践で学ぶ。	2通	64	4	○		○	○								
○		コミュニケーション実践Ⅱ	求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識することができる。	2通	48	3	○		○	○								
○		就職実務Ⅱ	個々の考える力を養い、探究心を強く持った人材の育成を目指す共に、インターンシップの経験から過去の問題事例の分析を行う。	2前	16	1	○		○	○								
○		コンピュータ実習Ⅱ	表計算の作成をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	2前	32	1			○	○								○
○		英語・英会話Ⅱ	英語をコミュニケーション・ツールの一つとして認識し、それを使って楽しむことができる。	2後	32	2	○		○	○								
	○	短大併修科目Ⅱ	自由が丘産能短期大学の通信課程併修科目に取り組む。	2前	32	2	○		○	○								
	○	心理学	人が行動を起こすための仕組みを知る。	2後	16	1	○		○	○								
	○	カウンセリング話法	カウンセリングの技術を通して、人との接し方、話し方の技術を習得する。	2後	16	1	○		○	○								
○		グルーミング実践Ⅱ	1人で小型犬のシャンプーが30分以内で終了し、かつ90分以内で全ての作業が終了出来る。	3通	64	2			○	○								○
○		ドッグトレーニング実習Ⅲ	犬の接点から観察、基礎ハンドリングまで行い就職後お客様や患者様の愛犬を扱う際に備える。	3通	48	2			○	○								○
○		ドッグトレーニング実習Ⅳ	マナーハンドラーテストに合格し、基本的なトレーニングを飼い主にアドバイスできるようになる。	3通	64	2			○	○								○
○		動物飼育実習Ⅲ	正常な動物を知り、個体ごとに適した飼育管理が実践できるようになる。	3通	64	2			○	○								○
○		動物看護実践Ⅲ	動物病院で行う業務の内、診察・検査・処置の意味や目的を理解し、補助・準備を行う。	3前	32	1			○	○								○
○		動物検査実践Ⅱ	基本的な検査技術の復習及び、より実践的な検査技術・看護技術を習得する。	3前	16	1			○	○								○

○		動物栄養管理実践	WaNファミリーの栄養管理を行う。問題点やQOL向上の観点から栄養面にアプローチをかける。必要な栄養素や飼い主のコンプライアンスに目を向け、担当を与えることで責任感を意識する。	3通	108	3				○	○	○						
○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病の病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。	3通	116	7	○			○	○							
○		AAA概論Ⅲ	動物介在活動と動物介在療法を理解することができる。	3通	96	6	○			○					○	○		
○		AAA実習Ⅲ	安心、安全な訪問活動を心掛け、高齢者のQOL向上の1つとして訪問活動を実施できる。	3通	84	3				○	○	○			○			
○		AAA実践Ⅱ	AAA実習の事前授業として、訪問活動に必要な技術を磨く。	3前	32	1				○	○				○			
○		AAA特論Ⅱ	動物介在活動と動物介在療法を理解することができる。	3前	16	1	○			○					○	○		
○		ビジネス経営基礎	ペットショップで必要な知識と技術、またペットショップ経営の基礎を習得する。	3通	64	4	○			○					○	○		
○		ビジネス経営応用	ペットショップで必要な知識と技術、またペットショップ経営の応用を習得する。	3通	64	4	○			○					○	○		
○		ネットビジネス演習	インターネット通販の仕組みや販売について理解し、実際のインターネット通販にて動物関係用品の出品し、販売を経験する。	3通	64	2				○	○				○	○		
○		就職実務Ⅲ	企業研究、企業訪問や就職試験について知る。	3前	16	1	○			○					○			
○		コミュニケーション実践Ⅲ	社会人としてふさわしい立ち居振る舞いを身につける。	3前	16	1	○			○					○			
○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解する。	3後	30	1				○	○	○	○					
合計					67科目	2926単位時間 (137 単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																											
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	荒井 英之	〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護師・栄養学科		平成22年文部科学省告示 第三十号	-																										
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、動物看護師、ペット栄養管理士、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																														
認定年月日	平成27年2月17日																														
修業年限	昼夜	至課程の終了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
	2年 昼間							2,668時間	1,700時間	0時間	968時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
60人		34人	0人	3人	12人	15人																									
学期制度	■前期：4月1日～9月13日 ■後期：9月14日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																										
長期休み	■夏期休業：8月2日～8月16日 ■冬期休業：12月20日～1月5日			卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																										
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。外部ボランティアへの参加を促している。学園祭実行委員を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動：有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) 動物病院、ペットショップ			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年3月31日時点の情報)																										
	■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>動物看護師統一認定試験</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	8人	8人	Excel3級	③	8人	6人	社会人常識マナー3級	③	8人	8人	動物看護師統一認定試験	③	8人	8人	ペット栄養管理士	③	8人	8人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																										
	Word3級	③	8人		8人																										
Excel3級	③	8人	6人																												
社会人常識マナー3級	③	8人	8人																												
動物看護師統一認定試験	③	8人	8人																												
ペット栄養管理士	③	8人	8人																												
■卒業者数 8人 ■就職希望者数 8人 ■就職者数 6人 ■就職率 75% ■卒業者に占める就職者の割合 75%			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																												
・進学者数： 0人 (令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)			■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																												

中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 9%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者32名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者29名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 人間関係構築上の問題、目的意識の低下</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.wan-c.jp/nurse_alimentation/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に行っている新潟市内および、新潟県内を中心に、動物病院からの講師派遣を依頼し、座学、実習などを行っている。

その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小池 哲也	新潟市獣医師会 会長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	①
宮川 篤史	宮川動物病院 院長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、2月、11月に開催

(開催日時)

2019年2月7日 16:00～18:00

2019年11月20日 13:30～14:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

動物看護師統一認定試験の受験資格となる、コアカリキュラムの内、総合臨床実習についての意見があった。総合臨床実習は、授業の一環として、動物病院内でのインターンシップ研修を行う科目である。実施するにあたり、指導のレベルや、指導に当たる人員の確保、施設設備、受け入れ可能かどうかの余力等が、各病院で異なる事情があるとのこと。指導内容の統一、評価を、各動物病院へ求めるにあたり、目的、目標、実習内容、評価の基準などを策定し、学校側が提示する必要がある。これらについて、動物看護師統一認定試験認定機構での指針を鑑みながら作成していくこととした。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護実習ⅠA	動物看護実習Ⅰでは、基本的な器具・用具の説明から消毒・滅菌、診察や手術の補助的作業を実習します。簡単な臨床検査の実習も行い、動物病院へ実習に行ったときに内容が把握できることを目標とする。	宮川動物病院
動物看護実習ⅠB	動物のグルーミングの技術を学ぶ。	宮川動物病院
動物看護実習Ⅱ	動物看護実習Ⅱでは、1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	宮川動物病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「動物看護師セミナー」

(連携企業等:草村動物病院)

期間:2020年2月27日(木) 対象:動物看護師・栄養学科教員1名

内容:動物看護師の国家資格化とその業務範囲について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「的場亮氏講演会」(連携企業等:株式会社グローバルキャリア)

期間:平成31年4月25日(木) 対象:動物看護師・栄養学科教員1名

内容:学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「動物看護師セミナー」

(連携企業等:新潟県獣医師会)

期間:2021年2月 対象:動物看護師・栄養学科教員1名

内容:動物看護師の国家資格化

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」

(連携企業等:株式会社マネジメントサービスセンター)

期間:2020年9月17日(木) 対象:動物看護師・栄養学科教員1名

内容:教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。学生指導や育成を目的としたインタアクション(コミュニケーション)を学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見を行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【指摘事項】

業界では、人材不足が続いている。就職実績としては問題ない。卒業生へのフォローアップがあったら良いと思う。しかし、卒業生としては、同級生と一緒にいこうという流れにならないと、参加しにくいことが本音である。

【改善・活用状況】

これらの意見に対して、卒業生と一緒に来校しやすいように、学園祭と校友会(OB,OG会)を同時開催することとした。2019年度の学園祭では、卒業後に活躍しているOB、OGの数名に、講演会をお願いする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
高橋俊介	愛宕商事株式会社 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
中村琴乃	国際ペットワールド専門学校校友会	平成31年4月1日～令和3年3月32日	卒業生
平原法子		平成31年4月1日～令和3年3月33日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

令和2年9月11日公表

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2020/img/pdf/2020_schoolrelationship.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 動物看護師・栄養学科 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。	1通	128	8	○			○			○	
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1通	64	4	○					○		
○			動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。	1通	64	4	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	微生物の分類や生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1前	64	4	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅱ	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。	1後	32	2	○			○			○	
○			動物臨床栄養学Ⅰ	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1後	32	2	○			○			○	
○			動物医療関連法規	獣医療現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。また、2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護師の倫理要項2009」と「動物看護師の業務指針」（2012）についても学ぶ。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物人間関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学および社会学的側面から理解する。	1前	32	2	○			○			○	
○			動物行動学Ⅰ	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解させる。	1前	32	2	○			○		○		

○		動物外科看護学 実習 I	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには、日頃からの手術器具、機材の管理が必要となり、術中の補助では麻酔下の看護動物がどのような状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。	1 後	32	2				○	○		○	
○		動物看護総合実習 I	修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。	1 後	90	1				○		○		○ ○
		就職実務 I	働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	1 後	32	3	○				○		○	
○		動物形態機能学 V	1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	2 前	32	2	○				○		○	
○		動物疾病看護学 II	バイタルサイン、病的変化	2 前	32	2	○				○		○	
○		動物疾病看護学 III	バイタルサイン、病的変化	2 前	32	2	○				○		○	
○		動物疾病看護学 IV	バイタルサイン、病的変化	2 後	32	2	○				○		○	
○		動物疾病看護学 V	バイタルサイン、病的変化	2 後	32	2	○				○		○	
○		動物薬理学	作用機序、薬物耐性、薬物アレルギー、有害作用、中毒、プラセボ効果	2 後	32	2	○				○		○	
○		動物栄養学 III	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 前	16	1	○				○			○
○		動物栄養学 IV	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 前	16	1	○				○			○
○		動物栄養学 V	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 後	16	1	○				○			○
○		動物看護学 II	チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務指針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身につける。	2 前	16	1	○				○			○

○		動物繁殖学	生命を科学的に追求し、生命の不思議に触れることを目的とする。	2 後	16	1	○			○		○	
○		飼養管理学Ⅱ	実験動物、産業動物、野生動物、展示動物	2 後	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学Ⅰ	経過・症状に応じた看護	2 前	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学Ⅱ	経過・症状に応じた看護	2 前	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学Ⅲ	経過・症状に応じた看護	2 後	32	2	○			○		○	
○		動物入院管理	ケア、看護計画、看護記録、治療、処置別による看護	2 前	32	2	○			○		○	
○		幼齢動物・高齢動物管理	加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善	2 前	32	2	○			○		○	
○		救急救命対応	トリアージ、生命徴候、救命法（CPR）	2 後	16	1	○			○		○	
○		看護特論	統一認定試験を目標に不足している知識の充足と反復練習を行う。	2 後	120	8	○			○		○	
○		クライアントエデュケーション	疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導	2 後	32	2	○			○		○	
○		院内コミュニケーションⅡA	コミュニケーション能力を演習を通じ学ぶとともに、外部施設にて実際の運営に関わらせていただき実践力を身につける。	2 通	32	2	○			○		○	
○		院内コミュニケーションⅡC	表計算の作成をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	2 前	32	1				○	○		○
○		院内コミュニケーションⅡD	病院内での接遇、マナーなど実践を通じ学ぶ。	2 後	16	1	○			○		○	
○		動物飼育実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用	2 通	96	3				○	○		○ ○
○		動物看護実習Ⅱ	1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	2 通	144	5				○	○		○

○		動物臨床検査学実習Ⅱ	検査技術の実践と応用	2通	144	5				○	○	○		
○		外科動物看護実習Ⅱ	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング	2通	48	2				○	○	○		
○		総合臨床実習Ⅱ	外部の実習施設でのインターンシップを行う。	2前	62	2				○	○	○	○	
○		就職実務Ⅱ	企業研究、企業訪問や就職試験について知る。	2前	16	1	○			○	○			
○		トータルコミュニケーションⅡ	学校行事に係る準備や学校内、クラス内コミュニケーション力向上をはかる。	2通	32	2	○			○	○			
○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識、更には商品開発のための知識を習得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方を学ぶ。	2通	64	4	○			○		○		
○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病の病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。ペット栄養管理士資格に合格できる。	2通	76	5	○			○		○		
合計				58科目	2668単位時間									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日		荒井 英之		〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日		理事長 池田祥謙		〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
文化・教養	文化・教養専門課程	動物看護師・美容学科		平成22年文科科学省告示第三十号	-																										
学科の目的 企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、動物看護師、ペット栄養管理士、ペット美容(グルーマー、トリマー)、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																															
認定年月日 平成27年2月17日																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験																								
	3	3,496時間	1,920時間	0時間	1,576時間	0時間	0時間																								
単位時間																															
生徒総定員		生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
100人		60人	0人	3人	12人	15人																									
学期制度	■前期:4月1日～9月13日 ■後期:9月14日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																										
長期休み	■夏期休業:8月2日～8月16日 ■冬期休業:12月20日～1月5日			卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。 外部ボランティアへの参加を促している。 学園祭実行委員を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年3月31日時点の情報)																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 動物病院、ペットショップ			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>動物看護師統一認定試験</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	14人	12人	Excel3級	③	14人	11人	社会人常識マナー3級	③	14人	14人	動物看護師統一認定試験	③	14人	14人	ペット栄養管理士	③	14人	14人
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																										
Word3級	③	14人	12人																												
Excel3級	③	14人	11人																												
社会人常識マナー3級	③	14人	14人																												
動物看護師統一認定試験	③	14人	14人																												
ペット栄養管理士	③	14人	14人																												
■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業生数 14人 ■就職希望者数 14人 ■就職者数 11人 ■就職率 78.6% ■卒業生に占める就職者の割合 78.6% ■その他 ・進学者数: 0人			<p>※3</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>動物看護師統一認定試験</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>ペット栄養管理士</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	14人	12人	Excel3級	③	14人	11人	社会人常識マナー3級	③	14人	14人	動物看護師統一認定試験	③	14人	14人	ペット栄養管理士	③	14人	14人	
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
Word3級	③	14人	12人																												
Excel3級	③	14人	11人																												
社会人常識マナー3級	③	14人	14人																												
動物看護師統一認定試験	③	14人	14人																												
ペット栄養管理士	③	14人	14人																												
(令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)																															
中途退学の現状	■中途退学者 2名		■中退率 3.3%		平成31年4月1日時点において、在学者60名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者58名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 精神的な問題、健康上の問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度 ■専門実践教育訓練給付: 無																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	https://www.wan-c.jp/nurse_beauty/																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
③上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携について積極的に行っている。
新潟市内および、新潟県内を中心に、動物病院からの講師派遣を依頼し、座学、実習などを行っている。
その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
小池 哲也	新潟市獣医師会 会長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日(2年)	①
広川 美紀	ペットグルーミング&コンフォーツ 代表	平成28年4月1日～ 平成30年3月31日(2年)	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、11月と3月に開催

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年11月24日 19:30～20:30

平成29年度 第2回 平成30年3月22日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

一時期のペットブームで飼育されている犬が、高齢を迎えている。ペットサロンへ、シャンプーやトリミングのために、高齢犬を持ち込む機会も増えている。しかし、心臓疾患などを持っている個体では、通常のペットサロンでの施術はリスクが高く、断られることがある。そこで、動物病院でのシャンプーやトリミングの需要が高まっている。1年次と2年次で動物看護に関するカリキュラムを行い、3年次でペット美容を行うカリキュラム案であったが、技術習得や学生のモチベーション維持の面から、2年次から少しずつペット美容の実習を行うこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習終了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護実習ⅠA	動物看護実習Ⅰでは、基本的な器具・用具の説明から消毒・滅菌、診察や手術の補助的作業を実習します。簡単な臨床検査の実習も行い、動物病院へ実習に行ったときに内容が把握できることを目標とする。	宮川動物病院
動物看護実習ⅠB	動物のグルーミングの技術を学ぶ。	宮川動物病院
動物看護実習Ⅱ	動物看護実習Ⅱでは、1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	宮川動物病院
動物看護実習Ⅲ	動物看護実習Ⅱで得られた知識と技術をもとに、動物病院で必要なスキル・応用力を身につける。	宮川動物病院

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。 校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>平成30年1月14日実施「動物看護師セミナー」…動物看護師・美容学科教員1名 連携企業である、宮川動物病院からの紹介で、にいがたペット行動クリニックの白井獣医師による講演研修を行った。内容は、「犬・猫にやさしい動物病院を目指そう」と題し、院内での低ストレスでの通院、診察を行うための方法について、研修を行った。また、新潟動物画像診断センターの坂大獣医師から、放射線教育訓練「放射線と生体への影響」と題し、放射線の基礎知識、人体への影響、法令、安全な利用法についての研修を行った。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>平成29年4月12日実施「てんつくまん氏講演会(ポジティブシンキングについての考え方)」…動物看護師・美容学科教員1名 学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、有限会社クラブ・サンクチュアリの軌保博光代表を講師として研修を行った。</p>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>平成30年7月8日実施「シニア犬の健康維持と介助」研修…動物看護師・美容学科教員1名 宮川動物病院からの紹介で、埼玉動物医療センターの理学療法士による講演研修を行う。</p> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>平成30年5月10日実施、「的場亮氏講演会(夢をかなえるためのコツ)」…動物看護師・美容学科教員1名 学生指導に関する、動機づけ手法の指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を開催する。</p>

<p>4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>	
<p>(1)学校関係者評価の基本方針 「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。</p>	
<p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p>	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見をを行った。

聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【教育理念】

開校当初から「人と動物とのより良い関係づくり」を教育理念として掲げていることは変わっていない。この理念を理解している保護者は、アンケートから88%であることが分かった。これを継続的に維持していくこととした。

【学校運営】

産学共同の一つとして、新潟市で初めての動物夜間急患センターを設立する運びとなった。新潟市の獣医師が主導となり、開院準備を行っていくが、両者が協調してスムーズな開院を目指せるように協力することとした。

【教育活動】

学科の再編成を行い、入学者のニーズと、輩出業界のニーズをマッチングさせることに努めた。動物看護師・美容学科(3年制)は、学生数も順調に集まり、業界の求める動物看護師とトリマーの両方をこなせる人材育成に期待がかかっているため、入学者募集の強化を行うこととした。また、動物看護師統一認定機構の方向性で、動物病院での実習を強化することが求められている。新潟市獣医師会とも連携を強化し、実習生の受け入れ方法、実習の内容、評価の方法など、検討していくこととした。

【学修成果】

卒業生の動向把握が弱いため、校友会を活用し、現況把握に努めることとした。就職については順調で、売り手市場の傾向が強くなっている。学科によっては、年度の途中で全員が内定、進路決定してしまい、求人との問い合わせに対してお断りをする場合もあった。今後、若年層の人口減少により、人手不足が続くことが予想され、業界への人材供給が追い付かなくなる可能性もある。雇用条件、待遇の良いところへ就職を決める学生も多いため、求人条件の見直しを企業へ求めることとした。

【学生支援】

年々、奨学金の利用者が増えている傾向にある。入学前からの奨学金利用の紹介や、学費サポートに関する相談受付を行っている点が評価された。就職活動の際のインターンシップで、見学へ宿泊を伴う際に、インターンシップ助成金制度を用意している。しかし、実際の学生の利用申し込みが少なく、周知が弱いとの指摘があった。インターンシップ助成金の利用促進について力を入れることとした。

【教育環境】

施設(特に実習室)の全面改修工事が、年度内に終了する予定となった。新たになった実習室での、より良い授業が期待された。

【学生の受入れ募集】

入学を検討している方が、学校の様子を具体的に知る方法として、Youtubeへの動画投稿を行っている。外部者から見て、在校生の様子や教育内容が分かりやすいと高評価であった。引き続き、動画投稿を継続していくこととした。

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
小島 雅彦	新潟市動物ふれあいセンター	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
高井 虎之介	水草と美魚の店 A.t	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	企業等委員
黒嶋 友也	国際ペットワールド専門学校 校友会役員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	卒業生
松田 大	国際ペットワールド専門学校 Club WaN会員	平成28年4月1日～平成30年3月31日(2年)	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

平成30年3月31日公表

URL: <https://www.wan-c.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3)教職員	・教員の専門性、担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6)学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8)学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9)学校評価	・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

（文化・教養専門課程 動物看護師・美容学科）令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各段階で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。	1通	128	8	○			○			○	
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1通	64	4	○					○		
○			動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物外科看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を習得する。	1通	64	4	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅰ	微生物の分類や生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症対策の基礎を修得する。感染防御に関わる免疫学の基礎についても学ぶ。	1前	64	4	○			○		○		
○			動物感染症学Ⅱ	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物臨床栄養学Ⅰ	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物医療関連法規	獣医療現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。また、2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護師の倫理要項2009」と「動物看護師の業務指針」（2012）についても学ぶ。	1後	32	2	○			○		○		
○			動物人間関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会学的側面から理解する。	1前	32	2	○			○		○		
○			動物行動学Ⅰ	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解させる。	1前	32	2	○			○		○		
○			しつけトレーニング実習	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。	1通	64	2	○			○		○		

○		動物看護総合実習 I	修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。	1 後	90	3				○	○	○	○
○		動物形態機能学 V	1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	2 前	32	2	○			○	○		
○		動物疾病看護学 II	バイタルサイン、病的変化	2 前	32	2	○			○	○		
○		動物疾病看護学 III	バイタルサイン、病的変化	2 前	32	2	○			○	○		
○		動物疾病看護学 IV	バイタルサイン、病的変化	2 後	32	2	○			○	○		
○		動物疾病看護学 V	バイタルサイン、病的変化	2 後	32	2	○			○	○		
○		動物薬理学	作用機序、薬物耐性、薬物アレルギー、有害作用、中毒、プラセボ効果	2 後	32	2	○			○	○		
○		動物栄養学 III	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 前	16	1	○			○		○	
○		動物栄養学 IV	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 前	16	1	○			○		○	
○		動物栄養学 V	あらゆる動物が生きていくために、必要な食物と栄養について理解を深める。	2 後	16	1	○			○		○	
○		動物看護学 II	チーム医療に基づいた専門職としての看護倫理、業務指針から、動物及び飼主に寄り添った動物看護実践能力と問題解決能力を身につける。	2 前	16	1	○			○		○	
○		動物繁殖学	生命を科学的に追求し、生命の不思議に触れることを目的とする。	2 後	16	1	○			○		○	
○		飼養管理学 II	実験動物、産業動物、野生動物、展示動物	2 後	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学 I	経過・症状に応じた看護	2 前	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学 II	経過・症状に応じた看護	2 前	32	2	○			○		○	
○		臨床動物看護学 III	経過・症状に応じた看護	2 後	32	2	○			○		○	

○		動物入院管理	ケア、看護計画、看護記録、治療、処置別による看護	2 前	32	2	○			○	○		
○		幼齢動物・高齢動物管理	加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善	2 前	32	2	○			○	○		
○		救急救命対応	トリアージ、生命徴候、救命法（CPR）	2 後	16	1	○			○	○		
○		看護特論	統一認定試験を目標に不足している知識の充足と反復練習を行う。	2 後	120	8	○			○	○		
○		クライアントエデュケーション	疾病予防、避妊去勢、健康管理、衛生管理指導	2 後	32	2	○			○			○
○		院内コミュニケーションⅡA	コミュニケーション能力を演習を通じ学ぶとともに、外部施設にて実際の運営に関わらせていただき実践力を身につける。	2 通	32	2	○			○	○		
○		院内コミュニケーションⅡC	表計算の作成をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、活用できる基本技術を身につける。	2 前	32	1			○	○			○
○		院内コミュニケーションⅡD	病院内での接遇、マナーなど実践を通じ学ぶ。	2 後	16	1	○			○	○		
○		動物飼育実習Ⅱ	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける。	2 通	96	3			○	○			○ ○
○		動物看護実習Ⅱ	1年次の復習に加え、病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習して即戦力の人材育成を目標とする。	2 通	144	5			○	○			○
○		動物臨床検査学実習Ⅱ	検査技術の実践と応用	2 通	144	5			○	○			○
○		外科動物看護実習Ⅱ	手術関連業務、術前術語の看護、麻酔、鎮痛、麻酔モニタリング	2 通	48	2			○	○			○
○		総合臨床実習Ⅱ	外部の実習施設でのインターンシップを行う。	2 前	62	2			○		○		○ ○
○		就職実務Ⅱ	企業研究、企業訪問や就職試験について知る。	2 前	16	1	○			○	○		
○		トータルコミュニケーションⅡ	学校行事に係る準備や学校内、クラス内コミュニケーション力向上をはかる。	2 通	32	2	○			○	○		
○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識、更には商品開発のための知識を習得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方を学ぶ。	2 通	64	4	○			○			○

○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病の病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。ペット栄養管理士資格に合格できる。	2通	76	5	○		○	○									
○		動物看護実習Ⅲ	動物のリハビリテーションを学ぶことで、動物のマッサージ、身体測定、動物のケアを実践できるようになることを目的とする。	3前	32	1			○	○	○								
○		動物病院実務	人と動物のより良い共生を目指し、専門職の観点から飼い主指導に活かすため、看護師（社会人）として適した思いやりを基本に、飼い主やスタッフとの良好な関係を築くための技術を身につける	3後	32	2	○			○	○								
○		動物飼育実習Ⅲ	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける。	3通	64	2			○	○							○	○	
○		グルーミング実習Ⅱ	120分の中で、シャンプー、ペイジング、ドライング、爪切り、耳掃除、足裏の毛のカット、足回りが1人で出来るようになる。	3通	384	12			○	○	○								
○		栄養管理実践	WaNファミリーの栄養管理を行う。主に、調理実習を行い、問題点から栄養面にアプローチをかける。必要な栄養素や飼い主のコンプライアンスに目を向け、担当を与えることで責任感を意識させる。就職を見据えた意識改革を行い、必要な検査については各自が実行できる技術を身につける。	3通	128	4			○	○	○								
○		食品学	ペットフードの原材料となる食品の栄養的特性や利用に関する知識、添加物や表示に関する知識、更には商品開発のための知識を習得する。また、食品栄養成分表の活用実践し、エネルギーと栄養素の算出方を学ぶ。	3通	64	4	○			○	○								
○		ペット栄養管理士対策	基礎栄養学をより深く掘り下げ、6大栄養素と消化生理について、生化学を学ぶ。疾病の病態生理や要求栄養素の違いを理解し、特別療法食による食事指導ができるペット栄養管理士を目指す。また、法律、ペットフードの原料や添加物について理解し、ペットフードの輸入・製造・販売業者に必要な知識を習得する。ペット栄養管理士資格に合格できる。	3通	76	5	○			○	○								
○		就職実務Ⅲ	就職に向けて企業検索、業界研究を進め早期に内定できるスキルを身に付ける。	3前	16	1	○			○	○								
○		トータルコミュニケーションⅢ	学内行事に係る準備や学校内、クラス内コミュニケーション向上をはかる。	3後	32	4	○			○	○								
合計					67科目					3496単位時間(174単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	16週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																									
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	荒井 英之	〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																									
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																									
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通2-541 (電話) 025-210-8565																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																								
文化・教養	文化・教養専門課程	ペット美容学科		平成22年文部科学省告示 第三十号	-																								
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、ペットのトリマーとして、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																												
認定年月日	平成27年2月17日																												
修業年限	昼夜	至課程の終了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
	2年 昼間							1,878時間	438時間	0時間	1,440時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																							
80人		48人	0人	3人	4人	7人																							
学期制度	■前期：4月1日～9月13日 ■後期：9月14日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																								
長期休み	■夏期休業：8月2日～8月16日 ■冬期休業：12月20日～1月5日			卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																								
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。外部ボランティアへの参加を促している。学園祭実行委員を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動：有																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) ペットサロン、動物病院、ペットショップ			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業生に関する令和2年3月31日時点の情報)																								
	■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業生数 18人 ■就職希望者数 18人 ■就職者数 17人 ■就職率 94.4% ■卒業者に占める就職者の割合 94.4% ・進学者数： 0人 (令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>④</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>サロントリマー検定1級</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	18人	15人	Excel3級	③	18人	15人	社会人常識マナー3級	③	18人	17人	愛玩動物飼養管理士2級	④	18人	18人	サロントリマー検定1級	③
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																										
Word3級	③	18人	15人																										
Excel3級	③	18人	15人																										
社会人常識マナー3級	③	18人	17人																										
愛玩動物飼養管理士2級	④	18人	18人																										
サロントリマー検定1級	③	18人	18人																										

中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 6.2%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者48名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者45名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 人間関係構築上の問題、精神的な問題</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.wan-c.jp/beauty/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に行っている。PETSALON partnerdogを中心に講師の派遣を行い実習を行っている。

その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
小池 哲也	新潟市獣医師会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	①
江口 亜由美	株式会社ミリオンペット 統括マネージャー	平成31年4月1日～令和2年3月31日	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、5月、11月に開催

(開催日時)

2019年5月9日 17:30～18:30

2019年11月28日 17:30～18:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ペット美容学科は、プロトリマーを育成するための学科である。プロ意識を高める必要があり、そのためには時間の管理、作業の質の管理、動物の管理が不可欠である。そのため、目標を高く設定し、1日に2頭から3頭の犬を仕上げるようにカリキュラム、指導方法を構成するべきであるとの意見であった。そのため、実習時間を増やし、グルーミング実習に参加できる犬の確保をするため、一般飼い主からの犬の募集強化と、ブリーダーからの提供数を増やすこととした。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現できるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師により学修の成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
グルーミング実習Ⅰ	2人1組で1頭をシャンプーセットができるようになる。	PETSALON partner Dog
グルーミング実習Ⅱ	1人でシャンプーができるようになる。	PETSALON partner Dog
グルーミング実習Ⅲ	カット犬のグルーミングができるようになる。	PETSALON partner Dog
グルーミング実習Ⅳ	カット犬のトリミングが一人ででき、美しい仕上がりを目指します。またその犬に合ったカットを提案できるようになる。	PETSALON partner Dog

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリミング研修」

(連携企業等: 有限会社パートナードッグ)

期間: 2020年2月18日(火)～19日(水) 対象: ペット美容学科教員1名

内容: PETSALON partner Dogによる、犬のトリミング研修を、実技を含めて行った。デモンストレーションとして、シャンプー、ブロー、カットまでを実際の犬を使用して行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「的場亮氏講演会」(連携企業等: 株式会社グローバルキャリア)

期間: 2019年4月25日(木) 対象: ペット美容学科教員1名

内容: 学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリミング研修」

(連携企業等: PETSALON partner Dog)

期間: 2021年3月 対象: ペット美容学科教員1名

内容: PETSALON partner Dogによる、犬のトリミング研修を、実技を含めて行った。デモンストレーションとして、シャンプー、ブロー、カットまでを実際の犬を使用して行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」

(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 2020年9月17日(木) 対象: ペット美容学科教員1名

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。学生指導や育成を目的としたインタアクション(コミュニケーション)を学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見をを行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【指摘事項】

業界では、人材不足が続いている。就職実績としては問題ない。卒業生へのフォローアップがあったら良いと思う。しかし、卒業生としては、同級生と一緒にいこうという流れにならないと、参加しにくいことが本音である。

【改善・活用状況】

これらの意見に対して、卒業生と一緒に来校しやすいように、学園祭と校友会(OB,OG会)を同時開催することとした。2019年度の学園祭では、卒業後に活躍しているOB、OGの数名に、講演会をお願いする。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
高橋俊介	愛宕商事株式会社 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
中村琴乃	国際ペットワールド専門学校校友会	平成31年4月1日～令和3年3月32日	卒業生
平原法子		平成31年4月1日～令和3年3月33日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

令和2年9月11日公表

URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2020/img/pdf/2020_schoolrelationship.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在学生数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性、担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 ペット美容学科 令和1年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			エキゾチックアニマル	犬・猫・ハムスター・モルモット・うさぎなどの小動物の生体の特徴、飼育方法を理解する。	1前	32	2	○			○			○			
○			グルーミング実習Ⅰ	120分の中で、シャンプー、ペイジング、ドライング、爪切り、耳掃除、足裏の毛のカット、足回りが1人で出来るようになる。	1前	192	6				○	○			○	○	
○			グルーミング実習Ⅱ	120分の中で、カット犬種のペットクリップが出来るようになる。	1後	192	6				○	○			○	○	
○			グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名、使用方法を学ぶ。グルーミングを行う上での注意点を理解する。また、犬種についての知識も学ぶ。	1前	16	1	○				○				○	
○			トリミング理論	各犬種ごとのペットカットのトリミングスタイルを学ぶ。	1通	16	1	○				○				○	
○			コミュニケーション実践Ⅰ	自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格のために対策授業を行う。	1前	32	2	○				○				○	
○			コンピュータ実習Ⅰ	文書入力がある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1後	32	1					○	○			○	
○			しつけトレーニング実習	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。	1通	64	2					○	○			○	
○			造形美術Ⅰ	ドッグマネキンをカットすることで、実際のトリミングのイメージをつかむ。また、道具の扱い方の練習を行う。立体のスタイルを作り上げる際に必要な観察力、想像力、形体を構成する力を学ぶ。	1前	32	1					○	○			○	
○			動物看護実践Ⅰ	動物の取り扱い方法、注射などの基本的な道具の取り扱いが習得できる。	1後	32	1					○	○			○	
○			動物飼育実習Ⅰ	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける。	1通	64	2					○	○			○	○
○			ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。社会人常識マナー検定3級合格に向けて、過去問題を使用しての対策授業を行う。	1前	32	2	○				○			○		

○	解剖学・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1 後	32	2	○		○	○	○										
○	飼養管理士総論	動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、対策授業を行う。	1 通	56	4	○		○	○											
○	就職実務Ⅰ	働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○		○	○											
○	人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何か？を学ぶ。	1 通	48	3	○		○												
○	動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。	1 前	32	2	○		○	○											
○	動物看護実践Ⅱ	動物病院で行っている基本的な検査について、目的や方法を理解し、手技を習得できる。また、手術関連業務について、準備や術前術後の看護、麻酔管理を理解する。	2 通	64	2			○	○											
○	グルーミング実習Ⅲ	100分の中で、カット犬種のペットクリップが出来るようになる。	2 前	384	12			○	○											
○	グルーミング実習Ⅳ	100分の中で、カット犬種のペットクリップが出来るようになる。	2 後	384	12			○	○											
○	コミュニケーション実践Ⅱ	社会人としてふさわしい立ち居振る舞いを身につける。	2 通	32	2	○		○	○											
○	コンピュータ実習Ⅱ	表計算の作成をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	2 前	32	1			○	○											
○	就職実務Ⅱ	企業研究、企業訪問や就職試験について知る。	2 前	16	1	○		○	○											
○	異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解する。	2 後	30	2	○		○	○											
合計			24科目										2342単位時間							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																											
国際ペットワールド専門学校		平成12年1月7日	荒井 英之	〒950-0911新潟市中央区笹口2-13-4 (電話) 025-240-8321																											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	理事長 池田祥護	〒951-8063 新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																											
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
文化・教養	文化・教養専門課程	ドッグトレーニング学科		平成22年文部科学省告示 第三十号	-																										
学科の目的	企業その他関係機関との連携の下、ペット、動物関連分野の職業人として必要な実務に関する知識や技能及び実践的かつ専門的な能力を習得し、犬のしつけインストラクターやドッグトレーナーとして、またはその他動物やペット関連分野の職業人として、地域社会、関連産業界、国家、国際社会の発展に寄与する人材を育成する。																														
認定年月日	平成27年2月17日																														
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																								
	2年	1,748時間	1,066時間	0時間	682時間	0時間	0時間																								
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
60人		19人	0人	1人	5人	6人																									
学期制度	■前期：4月1日～9月13日 ■後期：9月14日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 期末試験を実施し、点数により評価する。																										
長期休み	■夏期休業：8月2日～8月16日 ■冬期休業：12月20日～1月5日			卒業・進級条件	年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格(卒業基準) 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える																										
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任、学科主任、教務部長、その他教務と連携して、相談対応を行なっている。必要に応じ、カウンセラーを導入している。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツサークルを週1回開催している。外部ボランティアへの参加を促している。学園祭実行委員を組織し、学園祭を実施している。 ■サークル活動：有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和1年度卒業生) ペットショップ ■就職指導内容 目指す業界の現状やニーズ、内容を説明する。個々の進路選択についてアドバイスを行う。応募書類作成、面接、インターンシップについての指導や手配を行う。 ■卒業生数 7人 ■就職希望者数 6人 ■就職者数 6人 ■就職率 85.7% ■卒業者に占める就職者の割合 85.7% ・進学者数： 0人 (令和1年度卒業生に関する、令和2年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Word3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>Excel3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>社会人常識マナー3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>マナーハンドラーテスト</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	Word3級	③	7人	5人	Excel3級	③	7人	3人	社会人常識マナー3級	③	7人	7人	愛玩動物飼養管理士2級	③	7人	6人	マナーハンドラーテスト	③	7人	6人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
Word3級	③	7人	5人																												
Excel3級	③	7人	3人																												
社会人常識マナー3級	③	7人	7人																												
愛玩動物飼養管理士2級	③	7人	6人																												
マナーハンドラーテスト	③	7人	6人																												

中途退学の現状	<p>■中途退学者 1名 ■中退率 5.2%</p> <p>平成31年4月1日時点において、在学者19名（平成31年4月1日入学者を含む） 令和2年3月31日時点において、在学者18名（令和2年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 精神的な問題</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 専門のカウンセラーによるカウンセリング、転科、休学等の提案を行う。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者に対する入学選考料や入学金、授業料の減免制度 家族、知人などの紹介や同時在籍による学費の免除制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.wan-c.jp/dog_training/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業連携については開校以来積極的に行っている。有限会社パートナードッグを中心に講師の派遣、施設を利用した実習などを行っている。

その成果として、実践に即した即戦力、人間力が養われる環境にある。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する教務部会の直下に位置づけられている。構成員は企業関係者等と当校教員から成るものとし、委員は動物・ペット関連業界全体の動向及び学科専門分野に関する知見を有する有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する企業の役職員を含むものとする。教育課程編成委員会の開催前に教務部にて議題の作成を行う。この議題に基づいて、校長または副校長が教育課程編成委員会を招集し、意見聴取を行う。開催後、聴取した意見を教務部会で審議し、教育課程へ反映される。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小池 哲也	新潟市獣医師会 会長	平成31年4月1日～令和2年3月31日	①
古俣 伸子	有限会社 パートナードッグ 代表	平成31年3月31日～令和2年3月31日	③
若林 耕治	国際ペットワールド専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回、4月、9月に開催

(開催日時)

2019年4月1日 11:00～12:00

2019年9月24日 16:00～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

ドッグスポーツイベントに運営ボランティアスタッフとして学生を参加させ、一般飼い主様との接触や競技運営委員会との協力をする
ことの意味があった。イベントの現場を経験することにより、学生が業界へ出た際に、イベント運営に関わることができる人材とな
り、より実践的な教育に繋がる。そこで、スポーツドッグイベントへの全員参加を計画するため、バス送迎を行ってスタッフとして参
加する機会を計画した。

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

常に最新の知識の教授や技術指導が行えるよう、学校と企業が密接に連携した体制を築き、より実践的な職業教育が実現で
きるよう努める。講義及び実習の両方において、より実践的な専門知識、技術、社会性を身につける、プロとしての職業観
を得ることも目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科と業界・団体等が協定書を締結し、実習前に担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習目標を明確にした上
で、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況
を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、目標の達成状況の確認をするとともに、実習講師によ
り学修の成果を評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ドッグトレーニング実習Ⅰ	ご褒美で誘導する誘導法を用いた犬のトレーニング技術の習得を目指す。	有限会社パートナードッグ
ドッグトレーニング実習Ⅱ	動物介在活動に必要なトレーニング技術の習得	有限会社パートナードッグ
ドッグトレーニング実習Ⅲ	基本的なトレーニング方法から応用させて、犬が社会参加して行く上で必要なGCT(グッド・シチズン・テスト)の模擬試験受験に向けたトレーニング技術を習得する。	有限会社パートナードッグ
ドッグスポーツ実習	様々なドッグスポーツの種類やそのトレーニングの方法を学ぶ。	有限会社パートナードッグ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

全教員は学生指導力の向上のために各自の「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう努めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。これらの諸規定については、学校法人国際総合学園規程便覧、1. 就業規則、第57条(教育)に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」として、別に規定を定めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「スーパードッグスコンペティションin長岡研修」

(連携企業等: 有限会社パートナードッグ)

期間: 2019年11月16日(土) 対象: ドッグトレーニング学科教員1名

内容: ドッグスポーツ大会の運営と学生ボランティア管理について、有限会社パートナードッグが主催する、スーパードッグスコンペティションin長岡へ参加し、研修を行った。大会運営方法、学生指導方法、運営全般の管理について研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「的場亮氏講演会」(連携企業等: 株式会社グローバルキャリア)

期間: 2019年4月25日(木) 対象: ドッグトレーニング学科教員1名

内容: 学生指導に関する、モチベーションアップの指導技術について、株式会社グローバルキャリア代表、的場亮氏を講師として研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「スーパードッグスコンペティションin長岡研修」

(連携企業等: パップス&フレンズ)

期間: 2020年12月2日(水) 対象: ドッグトレーニング学科教員1名

内容: しつけ教室の運営方法について、インストラクションスキル、犬のハンドリング、顧客対応について修得する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員フォローアップ研修」

(連携企業等: 株式会社マネジメントサービスセンター)

期間: 2020年9月17日(木) 対象: ドッグトレーニング学科教員1名

内容: 教員としての自己の役割を再確認し、今後の課題を明確化する。学生指導や育成を目的としたインタアクション(コミュニケーション)を学び、学生と信頼関係を築き、意欲を引き出すスキル習得を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、専門分野関連企業等及び、卒業生、保護者、近隣住民などから選出した委員で構成する「学校関係者評価委員会」を設置して評価を実施し、評価結果を学校運営全般及び教育活動の改善等に活かす。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか ・社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像は、特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか ・業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか ・教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか ・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修などが行われているか

(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか

(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価項目は設定しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者委員は、学校の自己評価に基づき、ガイドラインの各項目について評価、意見を行った。聴取した意見について、校長、副校長、教務部長で検討会議を行い、改善を図れる該当箇所の整備に当たった。

【指摘事項】

業界では、人材不足が続いている。就職実績としては問題ない。卒業生へのフォローアップがあったら良いと思う。しかし、卒業生としては、同級生と一緒にいこうという流れにならないと、参加しにくいことが本音である。

【改善・活用状況】

これらの意見に対して、卒業生と一緒に来校しやすいように、学園祭と校友会(OB,OG会)を同時開催することとした。2019年度の学園祭では、卒業後に活躍しているOB、OGの数名に、講演会をお願いする。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
高橋俊介	愛宕商事株式会社 副主任	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
中村琴乃	国際ペットワールド専門学校校友会	平成31年4月1日～令和3年3月32日	卒業生
平原法子		平成31年4月1日～令和3年3月33日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
 令和2年9月11日公表
 URL: https://www.wan-c.jp/wp-content/themes/wan2020/img/pdf/2020_schoolrelationship.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 業界・団体との連携による実践的な職業教育を行う本校が、ペット・動物関連企業等との連携および協力の推進に資するため、学校関係者等に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・教育理念、教育方針、教育指針 ・育成する人材像 ・人間力育成のための指針 ・所在地、連絡先、校長名 ・学校の沿革
(2) 各学科等の教育	・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、定員、在 student 数 ・学科概要 ・進級・卒業の要件 ・主な資格、検定の実績 ・学科別取得目標資格、検定
(3) 教職員	・教員の専門性、担当科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職サポートシステム、就職支援の取り組み状況 ・実践的な実習授業の状況 ・就職実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事 ・施設設備 ・ボランティア活動実績 ・サークル活動
(6) 学生の生活支援	・生活支援のための学生寮、アパート紹介制度 ・シングルライフサポート制度 ・スクールカウンセラー ・通学定期、学割発行 ・学生総合保障制度、学生割引特典等
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金額 ・就学のための経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	・独立監査人の監査報告(資金収支書・消費収支書・貸借対照表)
(9) 学校評価	・自己評価結果と改善策 ・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	・海外からの講師招聘の状況 ・海外研修
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
 URL: <https://www.wan-c.jp/>

授業科目等の概要

文化・教養専門課程 ドッグトレーニング学科 令和1年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			飼養管理士総論	動物種の生態、管理や飼育方法について知識を身に付ける。また、動物に関連する法理についても学ぶ。愛玩動物飼養管理2級の合格に向け、対策授業を行う。	1通	56	4	○			○		○		
○			エキゾチックアニマルⅠ	犬・猫・ハムスター・モルモット・うさぎなどの小動物の生体の特徴、飼育方法を理解する。	1前	32	2	○			○			○	
○			動物関係法規	動物取扱現場及び、公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として順守の精神を養う。	1前	32	2	○			○			○	
○			公衆衛生学	各種微生物の基礎知識の習得、及び消毒・滅菌について理解をし、感染症についての知識を身につける。	1前	32	2	○			○			○	
○			動物看護実践Ⅰ	動物の取り扱い方法、注射などの基本的な道具の取り扱いが習得できる。	1後	32	1			○	○			○	
○			動物栄養学	動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学ぶ。	1後	32	2	○			○			○	
○			解剖学・生理学	動物の体の基本構造やはたらきをまず理解した上で、各組織での検査や代表的な疾患を把握する。	1後	32	2	○			○			○	
○			寄生虫学	内部寄生虫、外部寄生虫の生活環、病害、予防方法について学ぶ。	1後	16	1	○			○			○	
○			人と動物の関係学	現在、国際的に動物愛護がどのように進んでいるのか？日本の現状は？今後取り組んでいく課題は何なのか？を学ぶ。	1通	48	3	○			○			○	○
○			AAA総論	AAA、AATについて理解をすることを目的に、訪問活動に必要な様々な技術を実践形式で行い、日々の生活でも活用できるよう身に付ける。	1前	16	1			○	○			○	
○			AAA実習	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係と心理学的および社会的側面から理解する。また、動物介在活動を安全に実施するにあたり必要な配慮やリスク管理を理解する。	1前	36	1			○	○			○	

○		グルーミング理論	グルーミング実習を行う上でのグルーミングの目的、流れ、道具名とその使用方法を学ぶ。また、犬種についての知識も学ぶ。	1 前	32	2	○		○	○								
○		グルーミング実習	動物のプロとして必要な日頃のケアについて学ぶ。グルーミングの流れ、注意点について学ぶ。	1 前	32	1			○	○	○							
○		動物飼育実習	個体別の生活様式から正常と異常を見極め、適正な動物飼育を身につける。	1 通	64	2			○	○					○	○		
○		しつけトレーニング実習	正の強化と負の強化を使ったトレーニング方法を理解し、実行できるようになる。	1 通	62	2			○	○							○	
○		ドッグトレーニング実習Ⅰ	ご褒美で誘導する誘導法を用いた犬のトレーニング技術の習得を目指す。	1 後	32	1			○	○							○	○
○		ドッグマネジメントⅠ	健康管理や必要な道具、管理で注意すべきことなどを理解する。	1 後	44	3	○			○	○							
○		犬の世話と管理Ⅰ	犬の管理について理解を深める。	1 後	76	2			○	○	○							
○		コミュニケーション実践Ⅰ	自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。コミュニケーション検定初級合格のために対策授業を行う。	1 前	32	2	○			○	○							
○		ビジネスマナー	組織、お客様、取引先などと良好な人間関係を保ちつつ、仕事の成果をあげるためにビジネスマナーを身につける。社会人常識マナー検定3級合格に向けて、過去問題を使用しての対策授業を行う。	1 前	32	2	○			○	○							
○		就職実務Ⅰ	働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年の就職活動を意識する。	1 後	32	2	○			○	○							
○		コンピュータ実習Ⅰ	文書入力がある程度の速さで、正確に行えるようにする。Wordの理解を深め、活用できる基本技能を身につける。	1 後	32	1				○	○							○
○		エキゾチックアニマルⅡ	ウサギ、モルモット、ハムスターなど犬、猫以外のペットの適切な管理を学ぶ。	2 前	32	2	○			○								○
○		動物看護実践Ⅱ	動物病院で行っている基本的な検査について、目的や方法を理解し、手技を習得できる。また、手術関連業務について、準備や術前後の看護、麻酔管理を理解する。	2 通	64	2				○	○							○
○		動物行動学	犬や猫の行動様式の特徴を様々な視点から学び、犬や猫の本質などを理解する。	2 後	16	1	○				○	○						
○		しつけインストラクター実習	インストラクターとしての飼い主への指導法に関する知識と技術の習得する。	2 通	144	5				○	○							○
○		ドッグトレーニング実習Ⅱ	グッドシチズンテスト（以下GCTと記載）について理解を深め、各項目についてトレーニングを行うことで家庭犬に必要なトレーニングができるようになる。	2 通	96	3				○	○							○

○		ドッグトレーニング実習Ⅲ	担当犬にGCTとマナーハンドラーテストに必要なトレーニングを実施する。	2通	96	3				○	○			○	○
○		ドッグスポーツ実習	ドッグスポーツの競技について理解し、ハードルレースとアジリティについて担当犬とトレーニングを行う。	2前	64	2				○	○			○	○
○		ドッグレクリエーション	犬とのコミュニケーションを図るための、ゲーム、レクリエーションを考案する。また、ドッグダンスを創作し発表する。	2通	44	1	○			○			○		
○		犬の世話と管理Ⅱ	犬の健康面、行動面などを検討しどのように管理するかを考え実行できるようになる。一般の犬を預かり、管理を行う。	2通	204	6				○	○			○	
○		ドッグマネジメントⅡ	担当犬の管理を進めていく上で、検討が必要なことやグループ内で共有することなどを決定していく。	2通	44	3	○			○				○	
○		コミュニケーション実践Ⅱ	社会人としてふさわしい立ち居振る舞いを身につける。	2前	32	2	○			○				○	
○		コンピュータ実習Ⅱ	表計算の作成をある程度の速さで、正確に行えるようにする。Excelの理解を深め、活用できる基本技術を身につける。	2前	32	1				○	○				○
○		就職実務Ⅱ	企業研究、企業訪問や就職試験について知る。	2前	16	1	○			○				○	
○		異文化研究	異国の文化（言語、気候、風習、歴史など）を研究することで日本との違いなどを考察する。また、実際に海外に行き異国の文化に触れることで理解する。	2後	30	2	○			○				○	
合計					36科目			1748単位時間							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
年間総授業時限数の90%以上を出席 科目の評価が全て「C」以上 学校指定の検定を2つ以上合格 授業料、その他の納入金を完納、または、所定の手続きを終える	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。